

※本学のシンボルであるエンレイソウの形状をモデルに各業務のDXを推進



①資料のデジタルシフト

⑤窓口業務のリモート化

④紙資料のデリバリー

学習・研究支援
強化の
チャンスに！

②フロアのパーソナライズ化

⑥若手職員による業務見直し

【この取り組みによる成果】

困難な状況において、先進的な研究の支援を継続すること、また次代の人材の育成のための教育支援は止めることはできない。

どこにいても必要な学術情報を入手でき、職員によるサポートが受けられる体制整備を急いだことは、社会に安心をもたらすための一助となった。また、学生が安心して過ごせる環境整備も重要であり、早期に予算要求を行いオンライン授業にも利用できるパーソナルブースの設置が可能となったことは、学生のモチベーション維持に繋がるものと期待できる。

①資料のデジタルシフト

電子ブックを前年の2倍購入することで、授業に必要な資料へのアクセスを充実しました。

②フロアのパーソナライズ化

感染防止やオンライン授業に対応した個別のブースを設置しました。



③学外への発信強化

高精細デジタル画像によるウェブ展示を企画し、リモートでも細部まで閲覧できるサービスを実施しました。

また、国内大学図書館では第一位のフォロワーを擁するFacebookに加え、2020年4月に立ち上げたTwitterは半年で1,000以上のフォロワーを獲得し、多くの学生への情報発信に役立ちました。さらに大学図書館員の業務を紹介し、新たな人材確保につなげるためのブログツールnoteも立ち上げました。

④紙資料のデリバリー

デジタル化されていない本は要望に応じて自宅等に郵送しています。

⑤窓口業務のリモート化

在宅業務のため窓口が不在となっても対応できるよう、AIチャットボット等による対応策を検討しています。

⑥若手職員による業務見直し

デジタル資料をメインとした業務体制の在り方、フローの見直しなど多岐に渡って見直しを行いました。